

編集後記

第7巻第1号はご覧の通り、172頁で今までの最高頁数になりました。本号を手にした感触はいかがでしょう。

頁数だけでなく、本号には学位論文が掲載されており、内容的にも充実して来ていることを示していると言ってよいでしょう。もっとも学位論文は本号が最初というわけではなく、第2巻第2号(1976年)にすでに登場しております。さらにまた次号にも掲載予定として学位論文を1篇受理しております。今後は毎号に学位論文が掲載できるようになることを期待しております。さらに年3回発刊を実現させたいものです。

最近、常用漢字というものが発表されて、漢字制限のゆき過ぎが多少改善されたのは喜ばしいことです。従来の当用漢字には混合の混の字があるのに、それより単純な昆虫や昆布の昆の字がありませんでした。常用漢字に昆が復活したのです。同じような意味で、湾はすでに当用漢字にあるのに湾曲の弯はなく、今回も復活しませんでした。湾曲としてある論文を見ることがありますが、妙な感じですが、齶蝕の齶は当用漢字はもちろん常用漢字にもありません。だから「う蝕」と書くことも多いわけですが、学術論文ぐらいいは齶蝕と書きたいものです。その齶の字ですが、いまだ齶という活字が使用されているようです。本号にもこの字が使われています。しかし歯は戦前から歯が使われ始め、終戦後は歯が一般化し、現在では歯は全く見られません。ところが、より複雑な齶は、依然として使われているのです。一部の書物(例えば石川、秋吉:口腔病理学、改定版、1978年)ではすでに齶が使用されております。本誌も次号からは齶を採用したいと思います。

第7巻第2号は今年10月末日が原稿締切日となっておりますので、多くの投稿をお願いします。
(枝 重夫)

松本歯学 第7巻 第1号 (非売品)

1981年6月25日 印刷 1981年6月30日 発行

編集兼発行者 加藤 倉三
 発行所 松本歯科大学学会
 399-07 塩尻市広丘郷原1780 電話 02635-2-3100
 印刷所 電算印刷株式会社
 390 松本市筑摩3270 電話 0263-25-4329